

# きよらさ72



「黒漆菊唐草螺鈿天目台」  
16～17世紀・琉球



平成25年度  
第Ⅲ期常設展

## 漆器をかざる ～華やか!めでたいもようたち～

艶やかな漆器の表面を飾る、もよう。草花や動物、雄大な自然を描いたもの、おめでたい意味の事物をモチーフにしたものなど、漆器にはさまざまな文様が表されています。

今回の常設展では漆器を飾る文様に焦点をあて、作品を紹介します。

### ●花鳥～自然の美～

花と鳥がともに表された図を花鳥図といいます。花鳥図は絵画表現の主題として中国で発達し、漆器の文様にも表されるようになりました。琉球漆器にも花鳥図の作品は多く見られますが、時代によって表現が変化していきま

す。また花鳥図とは花と鳥を基本のモチーフとしていますが、それ以外の植物や動物などを表した図も花鳥図の表現のひとつです。今回はそのような花と鳥の組み合わせに限らない、花鳥図の広がり表現した作品も展示します。

### ●山水～理想の風景を求めて～

山々と水辺を組み合わせた文様を山水図といい、特定の場所というよりは、理想的な風景の表現をいいます。山水図は、琉球王国時代をとおして琉球漆器の典型的なモチーフとされてきました。同じ山水図であっても、その表現に変遷がみられます。古い時代の山水図は楼閣や人物が大きく、中心に描かれています。時代が下るにつれ、楼閣人物の表現が小さくなり、空間の大きい山水図中心の表現へと変化します。

特に19世紀以降、空間に余白を待たせた山水図がデザインされ、そのデザインをパターン化して表現された漆器が量産されました。

### ●吉祥文～幸せを願って～

右の写真は、桃の形をしたユニークな漆器です。中国では、西王母とよばれる仙女が桃の木を管理しており、それを食べると不老不死になるといいます。桃は長寿の象徴とされています。桃は工芸品に表される文様の一つとして多く用いられてきましたが、この作品のように、桃の形をした漆器も作られました。



黒漆花鳥箔絵密陀絵桃形食籠

いつの時代も、幸福を願う人々の思いは変わりません。漆器の文様にも、そうした願いを込めた吉祥文が表現されています。

### ●龍・鳳凰・獅子～聖獣を表す～

琉球は、1372年以降およそ500年に渡って中国と朝貢・冊封関係にあり、琉球からは夜光貝や織物など、様々な品が中国へ献上されてきました。琉球漆器もその一つで、特に中国皇帝から書を賜った際の御札など、特別な場合には五つの爪を持つ龍（五爪の龍）

が、螺鈿技法で表された盆や椀が献上されました。五爪の龍は最高の龍で、中国皇帝の象徴です。皇帝への敬意が込められた漆器は、琉球の朝貢を支える品だったのです。

龍の他、鳳凰、獅子など、想像上の生き物も琉球漆器の文様に表されます。これらもそれぞれ吉祥的な意味合いを持つモチーフです。

### ●各地の文様

漆器はアジア各地で作られる工芸品で、その文様にも地域の特徴がみられます。

例えば中国では宋の時代以降、「屈輪」と呼ばれる渦巻状の連続文様の漆器が作られました。



屈輪筆

上の写真の作品は、屈輪文様の筆です。単純な図柄ですが、漆を何度も塗り重ねて文様を彫り込む、「彫漆」という手の込んだ技法で文様が表現されています。

漆器を飾るひとつひとつの文様をどうぞお楽しみください。

平成25年度第Ⅲ期常設展

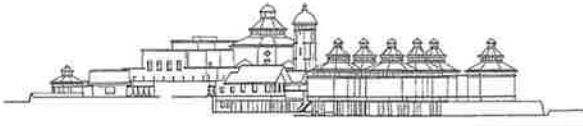
「漆器をかざる～華やか!」

めでたい!もようたち

会期 12月7日(土)～

平成26年4月20日(日)

## 自主企画展案内



### 南への風〜沖縄・台湾〜 近代沖縄の美術・工芸

沖縄の工芸にとって、近代とはどうい  
う時代だったのでしょうか。

明治12年の琉球処分により、琉球王  
国が解体された沖縄は、政治体制や経  
済環境の変革を迫られました。当時、  
殖産興業が日本の重要な政策であり、  
沖縄県でも各博覧会への出品や、実業  
学校・工業指導所などの設置によって産  
業振興を図ります。

そのような中、沖縄経済界で活躍し  
たのが、本土から来た寄留商人たちで  
した。漆器ではそれまでにない和風の  
品や沖縄風物を文様に取り入れた品を  
売り出します。陶器もエキゾチックなデ  
ザインの琉球古典焼が作られ、従来に  
無かった文様や技法が導入されて現在  
まで伝わっています。

織物は他産地との競争の中、県や業  
界は品質検査や織機・染色方法などの  
技術改良、売れる図柄の導入など様々  
な対策を図っていました。

明治以降、沖縄には様々な人々が  
やってきました。藤田嗣治や大野麦風  
といった画家たちが、南国の風景や人  
物をテーマに作品を残しています。昭  
和に入ると沖縄観光も本格化、陶器、漆  
器といった工芸品は沖縄土産となりま  
した。

一方、産業化が進む工芸に異を唱えた  
のが柳宗悦ら民藝同人行でしたが、彼  
らの思想が受け入れられるのは戦後に

なつてからでした。

近代沖縄で大きな存在だったのが台  
湾です。1895年(明治28)、日清戦  
争により台湾は日本の植民地となりま  
す。

沖縄からも仕事や商売で多くの人々  
が渡り、物の移出入が盛んになりまし  
た。台湾からは織物の材料である苧麻  
が大量に移入されたり、理研の台湾工  
場で沖縄出身の職人たちが現地の人々  
と共に漆器製作を行うなど工芸と結び  
ついた動きもありました。

この企画展では、こうした近代沖縄  
工芸の変化する姿を、社会背景と共に  
紹介していきます。

あわせて、藤田嗣治ら沖縄を描いた  
芸術家の作品や、台湾の高雄市立歴史  
博物館所蔵の漆器も特別展示します。  
またとないこの機会にぜひご覧くださ  
い。



芹沢銈介「那覇大市」  
(静岡市立芹沢銈介美術館蔵)

会 期／1月17日(金)〜2月16日(日)

観覧料／一般800円

・大学生500円・高校生以下無料

20名以上の団体100円引き

### 第14回浦添市小中学校美術作品展 〜特別賞受賞作品決まる!〜

14回目を迎える、浦添市小中学校美  
術作品展。今年も市内の小中学校、特  
別支援学校から選抜された児童生徒  
の優秀な作品、282点が出品されま  
した。学校での行事や日頃の生活、好き  
なものなど、思い思いに表現された作  
品はどれも子どもたちの豊かな感性が光  
ります。

去る11月下旬には審査会が行われ、  
市長賞をはじめとする特別賞受賞作品  
が決定いたしました。特別賞作品は、展  
覧会初日の表彰式にて表彰されます。

展覧会では出品作品を一堂に展示す  
る他、市内幼稚園児の作品、キンザー小  
学校の児童の作品も招待展示します。  
子どもたちの伸びやかで楽しい作品  
をぜひご覧ください!



昨年度の様子

主 催／浦添市・浦添市教育委員会

会 期／12月10日(火)〜12月19日(木)

観覧料／無料

# 実習教室 ・ 体験教室

## 冬の子ども体験教室(生徒募集)

今年度も冬の子ども体験教室を開催します。今回は「スノードーム」を作ります。

空き瓶やスポンジなど、お家にあるものを利用して、簡単に出来るスノードームです。

沖縄では見ることが出来ない、雪がふる冬の世界と一緒に作ってみませんか？

ご兄弟(姉妹)やお友だちと一緒に、お気軽にお申し込ください。教室の詳細は美術館までご連絡ください。

※申し込み多数の場合は、浦添市内の子どもを優先とさせていただきます。ご了承ください。

実施/12月15日(日) 予定  
時間/午後2時〜4時  
定員/10名  
費用/500円程度(保険料含む)  
申込/11月12日(火)

〜12月6日(金)

※申込は電話にて受け付けます。



## 実習教室の紹介

年度内の実習教室の募集は、残り2教室となりました。各教室の詳細は美術館までお問い合わせください。

### ◎きゅう漆教室(予定)

内容/乾漆技法と器の制作(予定)  
期間/1月11日(土)〜3月15日(土)  
(毎週土曜日 全10回)

時間/午後2時〜4時  
定員/10名  
費用/7000円程度  
講師/大見謝 恒雄氏(漆芸家)

### ◎紙すき教室(予定)

内容/未定  
期間/3月1日(土)

〜3月2日(日)(全2回)  
定員/10名  
費用/3000円程度  
講師/安慶名 清氏  
(和紙工芸家)

※各教室の申込時期は、教室開催の約一ヶ月前を予定しております。

※申し込み多数の場合は抽選。浦添市在住・在勤者優先となります。ご了承ください。



## 秋の子ども体験教室の報告

10月13日(日)に、秋の体験教室「おりがみ de ハロウィン」を開催しました。

当日は幼稚園生から小学生までの14名が参加し、個性溢れるハロウィンの様子を作っていました。折り紙でかぼちゃやおばけ、がいこつなどを、一生懸命折っている姿が印象的でした。



教室の様子



参加者の作品



# 講座・講演

## 美術館連続講座

### 「近代沖縄の美術・工芸」報告

当館では、今年度の自主企画展「南への風〜沖縄・台湾〜近代沖縄の美術工芸」にあわせて五回の講座を開催しています。

第1回目の8月24日(土)、西里喜行氏(琉球大学名誉教授)の「近代の沖縄社会〜外来」と「土着」の位相では、外来(ヤマトウンチュ)の流入と「土着」(ウチナンチュ)の流出さらに両者の対立と強調の視点で近代沖縄の社会を検証しました。

第2回目は9月14日(土)、小野まさ子氏(沖縄県史料編纂室)の「近代沖縄の観光・工芸・民藝」では、主に新聞記事を用いて沖縄観光の時代背景や民藝人らの活動が紹介されました。

第3回目は11月30日(土)、栗国恭子氏(沖縄大学非常勤講師)による「近代沖縄の工芸―産業振興と博覧会―」では、琉球王国の特色ある工芸品が日本や世界に向けての産業・商品へと転換していく状況を博覧会資料を通して紹介されました。

この講座は、年明けの展覧会会期中(平成26年1月17日(金)〜2月16日(日))も引き続き開催されます。

## 〈今後の講座〉

### 第4回「近代沖縄と台湾」

日時／1月25日(土)午後2時  
講師／又吉盛清氏(沖縄大学教授)

### 第5回「近代沖縄の漆器」

日時／2月1日(土)午後2時  
講師／岡本亜紀(当館学芸員)

※いずれも浦添市美術館講堂にて開催。聴講無料。

### 「南への風」

「沖縄・台湾〜近代沖縄の美術工芸」  
関連イベント

「南への風」展開連イベントとして、台湾と東京から講師を招き、講演会を開催いたします。

### 「台湾の漆芸と沖縄」

日時／1月17日(金) 午後2時  
講師／黄麗淑氏(台湾漆芸史研究家)

### 「昭和戦前期の沖縄と美術」

日時／1月26日(日) 午後2時  
講師／鈴木勝雄氏

(東京国立近代美術館主任研究員)

※両日とも浦添市美術館講堂にて開催。聴講無料。

## 浦添市美術館・明治大学共同講座

### 「琉球の漆文化と科学2013」

11月9日(土)、4回目となる「琉球の漆文化と科学2013」の講座が浦添市美術館講堂で開催されました。

かつての琉球王国では漆器は中国皇帝や日本の将軍や大名らに王国が誇る工芸として献上されてきました。しかし、沖縄の古い漆芸技術については不明な事柄が多いのです。これらを少しづつでも明らかにするために熱分解分析や X線などの科学の力にも協力してもらっています。

今回は基調講演として、木村法光氏(元宮内庁正倉院事務所)に約千三百年前の漆器や技法などをスライドを駆使しながら紹介していただきました。報告は5本ありました。神谷嘉美氏(東京都立産業技術研究センター)は「科学で明かす漆塗り」、金城貴子氏(沖縄県立理蔵文化財センター)は「円覚寺跡の遺構と出土遺物」、宮腰哲雄氏(明治大学理工学部)は「円覚寺出土の陶胎漆器の科学分析」、金城膳氏(沖縄民俗学会)は「糸満市宇糸満の門中墓出土遺物について」、本多貴之氏(明治大学理工学部)からは「糸満近世墓の棺片の科学分析」の報告があり、充実した内容の講座となりました。

# 表紙の言葉

## 黒漆菊唐草螺鈿天目台

螺鈿技法で、菊唐草文様が表された天目台。天目台とは天目茶碗を乗せ、神仏へ茶を献じる時や、大切な客人をもてなす際などに用いられました。

文様の菊は、長寿を象徴する花です。中国では菊を水に浸した菊花水や菊花茶、菊酒は病を治し、寿命を延ばすとされておおり、旧暦9月9日には長寿を願って、菊を鑑賞しながら菊酒を飲む「重陽の節句」という風習も行われてきました。

また菊の気品さを、徳や礼儀などを備えた「君子」に例え、梅、竹、蘭とあわせて、草木の中の「四君子」ともされています。

こうした中国の文化は周辺諸国へと伝わっていきませんが、琉球漆器の技法や文様もそのひとつです。中国の元～明時代の黒漆螺鈿の天目台には、表紙の作品のように、椀を受ける酸漿部分に菊唐草文様を廻らせた漆器があります。また伝世する琉球漆器には、表紙の作品と同系統で、やはり菊唐草文様が表された漆器が幾つかあります。表紙の作品をはじめ、菊唐草文様を廻らせた琉球の天目台も、中国の影響を受けたものなのでしょう。菊唐草文様の広がり、大変興味深いものです。

この作品は12月7日(土)からはじまる第Ⅲ期常設展にてご覧いただけます。(又吉)

### 小森邦衛先生インタビュー

【7月6日(土)～21日(日)】第30回日本  
伝統漆芸展」の解説会で来館された、人  
間国宝の小森邦衛先生にインタビューをさ  
せていただきました！  
伝統を現代に活かすことや、漆器を生活  
に取り入れるヒントについてお話していただ  
きました。



伝統工芸という言葉は古くさいイメージがありますが、先輩や先祖から受け継いだ技術を自らが磨き上げ、「今」の我々の表現方法で仕上げていくわけです。

すでにあるものをずっと引きずっていくのは「伝承」です。よね。伝統は、伝わってきた技術を上手く使い、さらに磨き上げ、今、自分たちがどう生きているかということを活かして創作に表すことだと思います。そしてやはり工芸ですから、ある意味での「目的意識」があります。展覧会は作家の表現力を集約した場ですが、そこでやったことをどう日常の生活のための創作に活かすかは、個々の作家に関わる大事な仕事ではないでしょうか。

基本的に漆器は手間がかかるため高額になります。ただ、そのぶん自分にとっては宝にもなる。それをしまひ込むのではなく、毎日使うことによって、自分の生活が豊かになればいいんじゃないかと思えます。

例えば「食器乾燥機にかけることが出来ないから漆器は使えない」と仰る方もいる。でも自分の大事なものは食洗機ではなく自分の手で洗う。その「生活のゆとり」が、大事なものを扱う二つの手がかりにはなるんじゃないかな。

美術館の展示作品も、その時代には100パーセント使われていたでしょう。沖繩にこれだけの漆の伝統があつて、それをいかに沖繩の中で残していくか。残した上でどう世界に発信していくか。せつかくの沖繩の漆の文化をすたれさせてはいけませんね。

### 美術館スケジュール 2013年12月～2014年3月

■常設展 展覧会名称	会 期	主 催
琉球を彫る・アジアを彫る	8/29(木)～12/3(火)	浦添市美術館
漆器をかざる！～華やか！めでたい！もようたち～	12/7(土)～平成26年4月20日(日)	浦添市美術館
■企画展 展覧会名称	会 期	主 催
梧桐会主催 第7回 大東文化大学OB書道作品展	12/4(水)～12/8(日)	梧桐会
菊田一郎 水墨画展	12/4(水)～12/8(日)	菊田一郎
第14回 浦添市小中学校美術作品展	12/10(火)～12/19(木)	浦添市美術館
第19回 沖縄県中学校総合文化祭	12/21(土)～12/22(日)	沖縄県中学校文化連盟
第29回 浦添工業高校デザイン科卒業作品展	1/9(木)～1/12(日)	浦添工業高校 デザイン科
南への風～沖縄・台湾～ 近代沖縄の美術・工芸	1/17(金)～2/16(日)	浦添市美術館
教育学部美術教育専修・教育実践学専修 大学院教育学研究科 美術教育専修 平成25年度 琉球大学 卒業・終了展	2/20(木)～2/23(日)	琉球大学 教育学部 美術教育講座
JA共済 全国小中学校 第41回書道・第31回交通安全ポスター沖繩コンクール	3/1(土)～3/2(日)	全国共済農業協同組合連合会沖繩県本部
創作人形グループ展	3/5(水)～3/9(日)	創作人形同好会
結展 Vol.6	3/5(水)～3/16(日)	沖縄県立芸術大学 卒業生
韓国写真家 ホ・ミョンウク「時を超えた真実」	3/19(水)～3/23(日)	熊野溝貴
水墨画展	3/26(水)～3/30(日)	黒島貞子、又吉秀子

開館時間:午前9時30分～午後5時 ※金曜日は午後7時まで(入館は閉館30分前まで)

休 館 日:毎週月曜日(公休日の場合は開館) 12/28(土)～1/4(土)は年末年始のため休館します。